

# 『成人発症の神経筋疾患における誤嚥防止術後の 臨床経過、予後に関する調査』 お知らせ

## 1. 実施目的について

神経筋疾患とよばれる病気には、様々な種類があり、その中には、徐々に症状が進行するものがあります。症状が進行するにつれ、飲み込む機能が徐々に低下する方や、呼吸機能も悪化する方もいらっしゃいます。呼吸を維持するために、気管切開術を行う場合がありますが、その際に、誤嚥(ごえん)を防ぐため、口腔内の分泌物などが気管内に流入しないよう、口から気管への通り道を防ぐ手術の方法があり、これを誤嚥防止術と呼びます。

誤嚥防止術には、誤嚥性肺炎を防ぐ一定の効果があることが知られていますが、術後にどの程度お口から食べることができるか、また術後の長期的な予後については、十分にわかっていません。今回の調査は、術後の食事の状況を調べたり、長期的な予後について調べることで、手術の効果を明らかにすることを目的としています。

## 2. 実施内容について

方法は、2007年1月から2023年9月までに当院脳神経内科、内科で診療した、進行性の神経筋疾患を有する症例のうち、経過中誤嚥防止術を行った症例について、カルテの記録を調べ、術後の嚥下機能、経口摂取状況、予後などについて調査します。

カルテを実際に調べる作業を行う期間は、これより平成2029年3月末までです。

## 3. 研究代表者

本崎 裕子(医王病院 第一診療部・脳神経内科 医長)

## 4. 調査対象期間

2007年1月から2023年9月末までのカルテを調査対象期間とします。

## 5. 個人情報およびプライバシーの保護について

それぞれの患者さまの個人情報は、個人が特定できないデータに変換された上で、データファイルが作成、保存、分析されます。この研究により、個人情報やプライバシーの漏洩や公開は生じません。

この研究の成果は、個人が特定できないデータとして、学術的な場でのみ公表します。

## 6. 本研究に関するお問い合わせ

上記のように、個人情報やプライバシーを保護した状態であっても、調査対象となることを拒否される場合、また、この研究についてご質問がある場合には、下記までお問い合わせください。

国立病院機構医王病院

脳神経内科 本崎裕子

病院長 石田 千穂